

## INFORMATION

2019年 法語カレンダー



2019年のカレンダーを配布しています。ご希望の方は徳泉寺までご連絡ください。



### 境内の花々



### 同朋会コーナー

十一月司朋会より

住職法話抜粋『お坊さんって何をしているの?』

お寺のイメージとはどんなものでしょうか。葬儀、法要、墓参り。どちらかというとうつらうつらと関わることに関わる、そんなイメージを持たれる方が多いと思います。もともと仏の教えとは生き生きと生きていく命ということを考えるものです。そして、お寺とはそんな私の命と出遭う場所。ではお坊さんとはどんな存在なのでしょう。実は「僧」とは古いインドの言葉でサンガといひ「僧伽」と書きます。これは、「教えに生きる人達」つまり仏教をとくに聞いていく仲間のことです。仏教各派が共通で大事にしている言葉に『三帰依文(さんきえもん)』があります。これは仏(ぶつ)法(ほう)僧(そう)をよりどころとしましょう、という教えです。仏は「ほとけ」、法は「おしえ」、そして僧は「仲間」。私たちは葬儀や法要で亡くなった方に手を合わせながら、その時実は仏と法と仲間と一緒に生きていくんだ、ということにあっているのです。

前任職法話一部抜粋『歎異抄 後序』より

阿弥陀が人々を救おうと立てられた願は「親鸞一人(いちにん)がためなり」と親鸞聖人はおっしゃいました。これは自分だけが救われればいい、ということではなく、「私一人が救われたということは、この世界で誰一人として救われないものはない」というあらゆる人々の救いの普遍性を説いているのです。なぜ、このように言ったのか。親鸞聖人は自身を「罪悪生死の凡夫」という言葉で表現します。罪深く迷い多き身を生きる私、そんな私自身でいいんだ、というスタートラインに阿弥陀の願いで立たせていただいた、その喜びの証明がこの言葉に表れています。

### 次回 同朋会 「案内」

十二月八日(土)  
午後一時～三時半  
茶菓代 500円  
持ち物(あれば) 勤行本・数珠  
どなたでも参加できます。

『徳泉寺報』後記  
この寺報の感想をお葉書やお電話でいただいたり、住職の訪問先で話題としていただいたりと温かいお言葉をたくさん頂戴しています。ありがとうございます。これからも気負わず楽しく徳泉寺の今をお伝えします。